

日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.82

2023年10月27日

発行

発行人：野尻紀恵 編集委員：熊谷紀良、松山毅、梅澤稔

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F

[事務局：全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)] Eメール jimukyoku@jaass.jp

第29回新潟大会開催にあたって

大会長 渡邊敏文（新潟医療福祉大学 社会福祉学部長）



日本福祉教育・ボランティア学習学会は、「会員相互の連絡と協力、関係学会等との連携と交流を図り、福祉・教育ボランティア学習に関する研究と実践の発展に資すること」を目的とし、これまで全国各地で学術大会を開催してきましたが、このたび、新潟市で開催できることを大変、光栄に思っています。

さて、近年、福祉教育やボランティアを取り巻く状況は、大きく変化しています。福祉教育の関連でいえば、平成29年の社会福祉法改正により、市町村による包括的支援体制が制度化されました。第106条の3（包括的な支援体制の整備）第1項1号において、市町村が行う事業の一つとして、「地域住民等に対する研修の実施その他の地域住民等が地域福祉を推進するために必要な環境の整備に関する施策」が規定されています。学校関係で実施される福祉教育だけではなく、地域住民に対する福祉の学びの場を整えていくことも包括的支援体制の整備の基盤として位置づけられています。

ボランティア活動については、「令和3年社会生活基本調査」（総務省統計局 令和4年8月31日）で、令和3年の「ボランティア活動」の行動者率は17.8%で、5年前より8.2ポイント低下したという結果が報告されています。過去20年間の推移をみると、平成13年から平成18年の5年間で2.7ポイント低下し、その後、10年間は20%代で横ばいの状況でしたが、今回の調査では大幅に下がっています。行動者数としては、938万2千人の減少となっています。災害発生との関係や社会経済の変化なども考慮しなければならないと思いますが、このような現実があります。ボランティアの輪を広めていく工夫として、住民がボランティア活動に参加するとポイントが付与され、そのポイントを使用して地元の加盟店で支払いや商品との交換が行われる事例などもあります。（「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」令和2年9月）ボランティア活動においても、さまざまな変化が起きています。

このような社会的環境を踏まえると、福祉教育やボランティア学習の“意味や価値”、“相互の関係性”などについて、あらためて問い直すことが必要なのではないでしょうか。本学会の設立趣旨や目的に照らし合わせると、自ずと「第29回新潟大会」の開催趣旨に掲げた、多様性・多世代というヒトと、あるいは環境・防災・人権・文化などのコトも含めて、「共に豊かに生きること」が議論の視野に入ってきます。

是非、新潟の地でみなさんと共に学び合い、考えたいと思います。心より、お待ちしております。

日本福祉教育・ボランティア学習学会

第29回新潟大会 開催概要

豊かさとはなにか～共に生きること、共に学び合うことの価値～

【1日目】2023年11月4日（土）9:30～ 受付開始

【2日目】2023年11月5日（日）8:30～ 受付開始

【会 場】新潟ユニゾンプラザ

（〒950-0994 新潟市中央区上所2丁目2-2）



新潟大会専用ページ

◆ プログラム

11/4（土）		会場
9:30	受 付	多目的ホール
10:00	ふく・ボラサロン	大研修室
11:30	休憩・移動	
12:30	開 会 式	多目的ホール
12:50	基調講演 「福祉教育・ボランティア学習に期待するもの～多文化共生の視点から～」	
14:00	休憩・移動	
14:20	課題別研究（新潟企画）	
	A 新潟水俣病と福祉教育～他者の存在と人権、多様性尊重の実現に向けて	中研修室
	B 福祉教育はなぜ必要か～それぞれの立場から考える福祉教育	大研修室
	C 福祉との出会い方は多様であっていい～表現と参加から福祉を考える	特別会議室
16:50	休憩・移動	
17:10	学 会 総 会（～18:00）	多目的ホール
18:30	情報交換会（～20:30）	新潟東映ホテル

11/5（日）		会場
8:30	受 付	多目的ホール
9:00	自由研究発表（口頭・ポスター）	会場は以下参照
11:30	休憩・移動	
12:30	課題別研究	
	1『語り』をめぐる福祉教育・ボランティア学習の可能性	大研修室
	2 SDGs 運動を組みなおす実践論の探求～居場所・プラットフォームづくり～	中研修室
	3「社会福祉・介護福祉検定」のレリバンス-高校福祉教育の新たな地平を拓く-	特別会議室
15:00	休憩・移動	
15:20	総合シンポジウム 「誰もが共に豊かに生きることを目指して～未来へつなぐ視点～」	多目的ホール
16:50	休 憩	
17:00	閉 会 式（～17:30）	多目的ホール

1日目のスケジュール : 11月4日(土)

ふくボラ・サロン	10:00 ~ 11:30	大研修室(4階)
-----------------	----------------------	-----------------

テーマは「ボランティアする？しない？きっかけをどうつくる-ユース世代の参加を考える-」です。

ふくし、ボランティア、持続可能な社会づくりに関わるユース（高校生・大学生・大学院生・若手研究者/実践者）があつまり、日頃の活動、研究/実践にかけの想いや悩みを共有しながら交流します。多様な活動に関わる参加者それぞれの関心を交差させ、これからの実践・研究活動をより豊かなものにしていくきっかけづくりを目的とします。非会員の方、初めての方も大歓迎です。ぜひご参集ください！

開 会 式	12:30 ~ 12:50	多目的ホール(2階)
--------------	----------------------	-------------------

学会長あいさつ 野尻 紀恵（日本福祉大学）
大会長あいさつ 渡邊 敏文（新潟医療福祉大学）

基調講演	12:50 ~ 14:00	多目的ホール(2階)
-------------	----------------------	-------------------

「福祉教育・ボランティア学習に期待するもの～多文化共生の視点から～」
羽賀 友信（長岡市国際交流センター）

課題別研究（新潟企画）	14:20 ~ 16:50	A 中研修室(5階) B 大研修室(4階) C 特別会議室(5階)
--------------------	----------------------	--

A 新潟水俣病と福祉教育～他者の存在と人権、多様性尊重の実現に向けて	中研修室(5階)
---	-----------------

福祉教育に携わる私たちをはじめ学校教育や社会教育関係者は、新潟水俣病とどう向き合い、人々や地域との関係にどのように責任を持とうとしているのでしょうか。まず、新潟水俣病患者の「語り」を、心を澄ませて聴き止めてみませんか。そして、水俣病と真摯に向き合って活動している関係者の発言を踏まえ、他者の存在と人権、多様性尊重を実現する福祉教育のあり方について議論します。

登壇者 : 小武 節子(新潟県立環境と人間のふれあい館)
山崎 陽(一般社団法人あがのがわ環境学舎)
加藤 タケ子(一般社団法人きぼう・未来・水俣)
コーディネーター : 丸田 秋男(新潟医療福祉大学)

B 福祉教育はなぜ必要か～それぞれの立場から考える福祉教育	大研修室(4階)
--------------------------------------	-----------------

「地域福祉は福祉教育にはじまり、福祉教育におわる」という言葉を社会福祉協議会の先輩たちが紡いできました。しかしながら、福祉に関する学びは、社会福祉協議会が中心に行うものだけでなく、学校や企業等でも取り組みが行われています。「なぜ福祉に関する学びは必要なのか？」という原点を問い直し、意識啓発から主体形成までの福祉教育のプロセスを再考します。

登壇者 : 山川 奈津子・本多 睦(新潟市立新通小学校)
佐藤 めぐみ(社会福祉法人燕市社会福祉協議会)
矢田 孝幸・本間 淳也(サントリービバレッジソリューション株式会社)
中澤 綾乃(新潟青陵大学福祉ケアコース)
コーディネーター : 米山 宗久(長岡大学)

C	福祉との出会い方は多様であっていい～表現と参加からふくしを考える	特別会議室(5 階)
国は、文化芸術の持つ『つなぐ力』が共生社会づくりの一助になると考え、様々な方が表現活動を楽しむことができるよう『障害者による文化芸術活動の推進に関する法律』などの整備を進めてきました。しかし、制度や政策を整備しただけで人々の意識が変わらないことも事実です。障がいのある人の表現を入り口としながら、福祉に無関心な層にアプローチする実践をもとに、出会いと学びについて考えます。		
登壇者：肥田野 正明(まちごと美術館 cotocoto) 角地 智史(新潟県アール・ブリュット・サポートセンターNASC) 山下 完和(やまなみ工房) ※事前収録した動画による出演 コーディネーター：渡邊 雅弘(新潟市社会福祉協議会)		

学会総会	17:10 ~ 18:00	多目的ホール(2 階)
情報交換会	18:30 ~ 20:30	新潟東映ホテル

2日目のスケジュール：11月5日(日)

受付	08:30 ~	多目的ホール(2 階)
自由研究発表	09:00 ~ 11:30	各会場

※ 分科会での口頭発表のうち連名者がいる場合の○印は代表発表者です。

ポスター発表 ▶屋内イベント広場(1 階)

P-1	プログラミングに苦手意識のある教員への「大富豪」を利用した教材開発
	○村川 弘城(日本福祉大学)、小林 洋司(日本福祉大学)、中島 智秀(大阪府立芥川高等学校)
P-2	災害被災地における福祉的活動のプロセスとコンピテンシー
	○三浦 修(新潟青陵大学)、李 在億(新潟青陵大学)、伊藤 裕輔(新潟青陵大学)
P-3	日本におけるサービス・ラーニングの展開(28)——COVID-19 禍前後における教科「人間と社会」の学習成果の変化——
	○山田 一隆(東海大学文理融合学部)、大束 貢生(佛教大学社会学部)、富川 拓(聖泉大学人間学部)、柴田 和子(龍谷大学社会学部)、古川 秀夫(龍谷大学国際学部)
P-4	日本におけるサービス・ラーニングの展開(29)——COVID-19 禍前と禍中における教科「人間と社会」の学習効果の相違——
	○古川 秀夫(龍谷大学国際学部)、山田 一隆(東海大学文理融合学部)、柴田和子(龍谷大学社会学部)、富川 拓(聖泉大学人間学部)、大束 貢生(佛教大学社会学部)
P-5	公立学校教員採用試験とボランティア活動ー各都道府県の教員採用試験出願者提出資料からの一考察ー
	○高橋 眞琴(鳴門教育大学)、尾関 美和(鳴門教育大学附属特別支援学校)
P-6	大学生を対象とした NPO インターンシップ実践研究
	岩満 賢次(岡山県立大学)

P-7	患者・一般市民と医療者の対話の場「薬局カフェ」における薬剤師の学び
	○大部 令絵(日本社会事業大学)、坂口 真弓(みどり薬局)
P-8	現場での学びとしての関係の変容に関する記述的研究 ―重い知的障害のある人とののかかわりを通して―
	奥西 允(東洋大学大学院ライフデザイン学研究科)
P-9	一人の子どもの生活課題を地域活動へつなぐ福祉教育・ボランティア学習
	○野尻 紀恵(日本福祉大学)、原田 康信(日本福祉大学)

第1分科会 司会：妻鹿ふみ子（東海大学）▶中研修室(5F)

1-1 9:00～ 9:30	コロナ禍の福祉教育・ボランティア学習実践における〈ゆらぎ〉の意義 ―当事者性をめぐる学習論に注目して― 堤 拓也(佛教大学)
1-2 9:30～ 10:00	「スクールソーシャルワーカーによるネットワーク構築型アウトリーチ実践プロセスの視覚化～外国人地域交流会のケースを土台として～」 小林 真弓(愛知県教育委員会)
1-3 10:00～ 10:30	東京都内高等学校等教員のボランティア部活動指導に対する意識と考え方 ○瀧澤 利行(東京ボランティア・市民活動センター、茨城大学)、熊谷 紀良(東京ボランティア・市民活動センター)、榎本 朝美(東京ボランティア・市民活動センター)、渡部 芽生(東京ボランティア・市民活動センター)、太田 学(東京ボランティア・市民活動センター)、山崎 美貴子(東京ボランティア・市民活動センター)
1-4 10:30～ 11:00	大学における教育的支援者としてのボランティアコーディネーターの専門性 ○川田 虎男(聖学院大学ボランティア活動支援センター)、若原 幸範(聖学院大学ボランティア活動支援センター)、芦澤 弘子(聖学院大学ボランティア活動支援センター)、原 一織(聖学院大学ボランティア活動支援センター)

第2分科会 司会：大石剛史（国際医療福祉大学）▶小研修室 1(4F)

2-1 9:00～ 9:30	アウトサイダーアートを媒介とした社会的創造性を生む契機の創出～地域福祉実践者が主に対象としてきた隣接領域の「外」に向けた福祉教育的 ICF アプローチ～ 川上 修史(新潟市社会福祉協議会)
2-2 9:30～ 10:00	学習者の視点拡張を促す福祉教育プログラムのデザインに関する研究 楠 聖伸(全国社会福祉協議会)
2-3 10:00～ 10:30	福祉教育のプログラム集による教員の変化 津田 真希(あわら市社会福祉協議会)
2-4 10:30～ 11:00	プログラムの改善に必要な視点とアプローチ方法 ―高齢者疑似体験に焦点をあてて― ○勝川 睦海(江南市社会福祉協議会)、伊藤 光洋(江南市社会福祉協議会)、鈴木 秀明(江南市社会福祉協議会)、小森 詩織(江南市社会福祉協議会)

第3分科会 司会：川島ゆり子（日本福祉大学）▶小研修室 2(4F)

3-1	地域を基盤とした福祉教育における社協職員の役割と実践課題
9:00～ 9:30	○高木 寛之(山梨県立大学)、宮崎早苗(愛南町社会福祉協議会)、馬詰洸太郎(愛南町社会福祉協議会)
3-2	ボランティア活動者における人のつながりと参加動機に関する質的研究 -サロン活動に参加する高齢者ボランティアに着目して-
9:30～ 10:00	○山下 彦(河原医療福祉専門学校)、永井邦明(令和健康科学大学)
3-3	市区町村社会福祉協議会ボランティアセンターにおける福祉教育の位置付けに関する一考察
10:00～ 10:30	○駒井 公(全国社会福祉協議会)、渋谷真那(全国社会福祉協議会)
3-4	今後の「福祉学習サポーター」養成の視点・工夫について
10:30～ 11:00	井本 有哉(名古屋市社会福祉協議会地域福祉推進部)

第4分科会 司会：田村真広（日本社会事業大学）▶小研修室 3(4F)

4-1	福祉教育的機能を活かした共同募金配分金助成のスキーム作り
9:00～ 9:30	○梅木 博志(日本福祉大学大学院社会福祉学研究科)、星野 久子(群馬県共同募金会)
4-2	地域づくり支援プロセスにおける主体形成支援と課題 -A地区の買い物支援の取り組みを例として-
9:30～ 10:00	○伊藤 光洋(江南市社会福祉協議会)、鈴木秀明(江南市社会福祉協議会)、勝川睦海(江南市社会福祉協議会)、小森詩織(江南市社会福祉協議会)
4-3	社会福祉法人における住民との福祉教育に関する一考察 ～2 法人の地域貢献活動からの新たな視点～
10:00～ 10:30	○南 多恵子(関西福祉科学大学)、石井祐理子(京都光華女子大学)、小野智明(白梅学園大学)、岩本裕子(関西国際大学)、妻鹿ふみ子(東海大学)

第5分科会 司会：松岡広路（神戸大学）▶小研修室 4(4F)

5-1	高校生の社会参画の地域移行に関する実践事例研究 ～高校と地域のパートナーシップの課題～
9:00～ 9:30	大滝 修(東京経済大学)
5-2	中山間地域に関わる際の葛藤とジレンマ：「学生と教員」「地域」「地域の支援者」三者間の互酬性に着目して
9:30～ 10:00	菊池 遼(日本福祉大学)
5-3	地域コミュニティの活性化に寄与する体験型防災教育の試み -沖縄県宜野座村での防災キャンプ講習から-
10:00～ 10:30	○高村 秀史(日本福祉大学)、當山 武尚(宜野座村社会福祉協議会)

第6分科会 司会：小林洋司（日本福祉大学）▶特別会議室(4F)

6-1 9:00～ 9:30	異なる学びの場の連関による当事者性の変容ー国内外のボランティア／ツアープログラムを事例にー
	後藤 聡美(神戸大学・日本学術振興会特別研究員)
6-2 9:30～ 10:00	施設実習における交流経験が保育科学生の知的障害児（者）観に及ぼす効果ーパーソナリティ特性の観点からー
	長谷中 崇志(名古屋柳城短期大学)
6-3 10:00～ 10:30	起立性調節障害の児童生徒を対象とした居場所の参加者へのインタビューーOD児にとって居場所はどのような意味を持つものであったのかー
	萩原 昭広(大阪人間科学大学)
6-4 10:30～ 11:00	「福祉教育の視点」を意識した福祉教育プログラム集の作成過程
	○松山 毅(順天堂大学)、菊地 望美(千葉県社会福祉協議会)、今井 裕司(千葉県社会福祉協議会)

課題別研究	12:30 ～ 15:00	1 大研修室(4階) 2 中研修室(5階) 3 特別会議室(5階)
--------------	----------------------	--

1	『語り』をめぐる福祉教育・ボランティア学習の可能性	大研修室(4階)
本課題別研究は、今年度（2023年度）で3年目をむかえる。1年目の2021年度は、「語り」の先行研究を整理し、2年目の2022年度は、大きく2つの方向から研究を進めてきた。1つは、福祉教育・ボランティア学習における「語り」の実態調査である。もう1つは個別テーマ（「メンタルヘルス」「震災」「ハンセン病」の3つ）の研究である。今年度は上記2つの方向の研究をまとめていく予定である。		
世話人 岡 多枝子（人間環境大学）、奥山 留美子（山形県福祉教育・ボランティア研究協議会）川田 虎男（聖学院大学ボランティア活動支援センター）、小林 洋司（日本福祉大学）、菱沼 幹男（日本社会事業大学）、松本 すみ子（東京国際大学）、三ツ石 行宏（高知大学）		

2	SDGs運動を組みなおす実践論の探求～居場所・プラットフォームづくり～	中研修室(5階)
本課題別研究は、国際的動向を踏まえながら、SDGsと福祉教育・ボランティア学習の関係を問うとともに、求められる教育・学習の理論・技法を福祉教育・ボランティア学習実践の観点から明らかにすることを主題とする。今回は、先の神戸大会での4つの＜こうべ企画＞の内容を整理しつつ、SDGs運動に求められる学びの諸要素と期待される実践の枠組みを検討する。		
世話人 松岡 広路（神戸大学）、諏訪 徹（日本大学）、市川 享子（東海大学）、斎藤 優子（日本生活協同組合連合会）、佐藤 陽（十文字学園女子大学）、堤 拓也（佛教大学）、後藤 聡美（神戸大学）		

3 「社会福祉・介護福祉検定」のレリバンス-高校福祉教育の新たな地平を拓く**特別会議室(5 階)**

全国福祉高等学校長会は 2015 年度に「社会福祉・介護福祉検定」を開始し、この 8 年間で、毎年約 4000 名 (100 校)、延べ約 3 万名の高校生が受験してきた。しかし、資格取得による生徒の福祉観やキャリア形成等に関する実証研究は管見の限り見られない。そこで本研究では、全国調査に基づくトライアングレーションによるレリバンス (整合性) の検討を通して、高校福祉教育の新たな地平を展望する。

世話人

矢幅 清司(淑徳大学)、長尾 勝恵(北海道置戸高等学校)、真田 龍一(東奥学園高等学校)、中山 見知子(群馬県立吾妻中央高等学校)、茶木 正幸(名古屋市立西陵高等学校)、高木 諒(愛知県立古知野高等学校)、出沢 秀子(山梨県立大学)、岡 多枝子(人間環境大学)

総合シンポジウム**15:20 ~ 16:50****多目的ホール(2 階)**

「誰もが共に豊かに生きることを目指して～未来へつなぐ視点～」

シンポジスト : 加藤 タケ子(一般社団法人きぼう・未来・水俣)
小見 まいこ(特定非営利活動法人みらいず works)
森下 英矢(お笑い集団 NAMARA)

コメンテーター : 渡邊 敏文(新潟医療福祉大学)

コーディネーター : 原田 正樹(日本福祉大学)

閉 会 式**17:00 ~ 17:30****多目的ホール(2 階)****■ 特別な支援や配慮が必要な方へ**

- ① 宿 泊 : 特に指定はありません。大会事務局で用意しているホテルを利用する場合は、宿泊申し込みフォームから申し込みをお願いします。数に限りがあります。
- ② 交通手段 : 公共交通機関またはタクシーなどの民間サービスをご利用ください。
恐れ入りますが、民間サービスの斡旋はおこなっておりません。
- ③ 情報保障 : 4 日(土)の開会式、基調講演、5 日(日)の総合シンポジウム、閉会式は手話通訳・要約筆記を予定しています。
詳しくは大会ホームページでお知らせします。
- ④ 託 児 : 会期中、参加者の方にご利用いただける託児室を設ける予定です。
利用を希望する場合は、参加申込時にその旨を入力ください。

■ 大会事務局

社会福祉法人新潟市社会福祉協議会

〒950-0909 新潟市中央区八千代 1-3-1 新潟市社会福祉協議会

TEL 025-243-4370 FAX 025-243-1217

新潟大会事務局メールアドレス nvac@syakyo-niigatacity.or.jp

拡大理事会を開催しました

理事・事務局次長 大石 剛 史（国際医療福祉大学）

去る2023年9月3日、学会理事と特任理事が参加する拡大理事会がオンライン開催された。拡大理事会は、理事と拡大理事とが一同に会し、学会の今後についてざっくばらんに話し合うことを目的に、年1回開催している。

まず、今年の学会大会、新潟大会の大会長、渡邊敏文先生よりご挨拶と大会概要についてお話をいただいた。次に来年度に控えた学会30周年の記念事業（30周年記念誌の刊行）について進捗状況の報告があった。

そして、現在研究が進められている3つの課題別研究の進捗状況についての報告が行われた。①『語り』をめぐる福祉教育・ボランティア学習の可能性は3年目の最終段階、②「SDGs 運動と居場所づくり・プラットフォームづくりの関係を問う」は2年目の進捗状況、そして今年度から研究が始まった③「社会福祉・介護福祉検定」のレリバンスー高校福祉教育の新たな地平を拓くーは、今後の研究の見通しについて報告された。

その後、今後の学会活動の方向性について議論が行われ、各理事・拡大理事より活発な意見が出された。各理事・拡大理事の考えや、現在の関心事が述べられ、今後の学会運営のヒントが得られるとともに、各理事間の交流を深める有意義な会となった。

事務局からのお知らせ

事務局からのお知らせについては、今後その都度学会運営システムのメッセージにてお送りすることになります。また、新入会員紹介についても、学会ニュースとあわせて、学会運営システム内のメッセージにてお送りしますので、お見逃しのないようご覧下さい。

●編集後記●

学会ニュースNo.82では、第29回新潟大会の情報を中心にお知らせいたします。大会直前にもかかわらず、渡邊大会長および大会事務局に原稿を作成いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。大会長の巻頭言、そして大会概要を見ながら、これから何をしなければいけないのかを考えています。福祉教育、ボランティア学習の価値を問いながら、研究、実践をすすめていきたいと思います。新潟大会でお会いできることを楽しみにしています。（梅澤）